*早稲田の杜 通信*２０２５年４月号

時々ふとなぜだろうと思われる時があります。中学や高校の受験の時、偏差値ガ65以上と思われる学校に入学できた生徒が、その先、大学受験になると意外と苦戦するケースが多いことです。

中学や高校を受験した時の実力をそのまま維持できれば大学でもそれ相応のところへ入れそうなもので、当然、実力通りの結果を残せた学生も少なくありませんが、反面、希望する大学に進めなかった学生も多く見てきました。逆に、偏差値がそう高くはないと思われる中学や高校へ進学した学生が、偏差値で７０近い大学へ合格するというケースもよく見てきました。

なぜこのような結果が生じるのかあくまで私の個人的判断ですが、うまくいかなかった学生の場合、中学、高校受験で一段落し燃え尽きてしまって、その一歩先へなかなか進めない。あるいは、大学受験でも、中学や高校での受験の時と同じような対応しかできなかったのではと思われます。

中学と高校とで習う学習内容を比較した場合、高校での内容は中学とは比べものにならないほど深い上に、覚えるべきことも格段に多くなり、これを身につけなければならないところに大学受験の困難さがあります。

中学、高校の受験では学校や塾で習った内容を忠実にこなしていけばほぼ合格にたどりつけます。

しかし、大学受験ではその内容の豊富さから、予備校や塾、学校で習った範囲をこなすだけではカバーしきれず、それ以上の実力、すなわち、教わるだけの勉強ではなく、自ら自主的に取り組んで問題を解決する力を備えることが要求されます。ある意味、大学受験は、自分をそこまで進化させられるか、自分との勝負になります。

大学付属の学校に入りストレートにその大学に進むという生徒は別として、最終的に目指すべきは中学でも高校でもなく、その先の大学受験であるはずです。中学、高校でも大学受験を意識した取り組みを心がけるべきです。

習っていない問題だからできないと弱音を吐くのではなく、習っていなくてもこれまでの知識で考えればできるかもしれない、やってみようという積極的な取り組みを日々積み重ねる、それこそが大学受験につながる道です。

話が変わりますが、学年が一つ上がり、参考書選びに悩むこともあると思います。参考書は、勉強する上で一番大切な道具の一つです。参考書選びで少しアドバイスができればと思います。

まず大事なことは、参考書など、次から次へと目移りしないということです。

極端な話ですが、Ａという参考書を使っていたかと思うと次の日はＢという参考書に目が移り、また次の日はＣという参考書にとって代わって、書き出しの部分ばかり繰り返し勉強しているだけという人を見かけます。

参考書は書き出しの部分より先へ行くほうで内容が濃くなり重要な部分が多くなると言えます。と同時に内容が深く掘り下げられる分、難しくもなります。この難しくなる部分までしっかりやりぬくことです。

また、ある人からいい参考書だという話を聞くと、すぐに参考書を乗り換える人がいます。

人が推薦する参考書であれば検討に値することではありますが、必ずしもそれが自分のニーズに合っているか即断することはできません。どの参考書にもそれを書いた人の狙い、魂がこもっています。

参考書は、それを使う人の、その時点での力量、目的、使われ方によってその価値が大きく変わります。

私も教材や参考書の選定では悩みぬきます。私の参考書選びは、難しい問題をどのように説明しているか調べることから始まります。書店に行き、同じ問題に対する説明をかたっぱしから読み比べます。何冊も、何度も読み比べるので1時間や2時間はあっという間に過ぎてしまいます。この方法で選んだ参考書はほぼ間違いないのですが、中には、わかりやすいという謳い文句でも説明がくどすぎて読みにくいもの、あるいは逆に、説明があまりに簡略すぎてなかなか理解しにくいなど、使ってみて初めて気がつく参考書も少なくありません。

知りたい内容、学びたい内容を無理、無駄なく、簡潔にわかりやすく説明してある参考書が強い助けとなり、勉強意欲を高めてくれます。参考書は最終的には自分でじっくり検討し選ぶことがベストです。大事なことは最後の1頁までしっかりやりきること。欲を言えば1回で終わりとせず繰り返しやり直すこと。定着度が格段に高まります。

* **ゴールデンウィークですが、５月３日(土)～５月６日(火)の期間を塾のお休みとさせていただきます。**